

史跡 三ッ城古墳の概要

三ッ城古墳群は、南の八幡山から北の丘陵の先端を利用し、造られた3基の古墳からなる古墳群です。

これらは、昭和57（1982）年6月3日に史跡に指定され、平成2（1990）年度から平成5（1993）年度にかけて、保存と復元のための工事が実施され、現在は公園として整備されています。

●三ッ城第1号古墳

第1号古墳は、鍵穴の形をした前方後円墳で、全長約92m、後円部の直径約62m、高さ約13m、前方部先端の幅約66mの大きさです。これは広島県内で、最大の古墳です。

墳丘は三段に築かれていて、それぞれの段の上には、円筒埴輪や朝顔形埴輪が立てならべられています。

円筒埴輪や朝顔形埴輪のほかに、前方部に鶏や水鳥、盾、靱、冑、短甲等の形象埴輪が立てられ、後円部では、冢形埴輪が置かれています。このほか衣蓋形埴輪（古墳時代の羽根飾りのついた日傘をモデルにしたもの）も、各所に立てられ、古墳全体では、約1800本余りの埴輪が使われています。

古墳の斜面は、石（葺石）で覆われ、埴輪とともに古墳を飾っています。

古墳の左右のくびれ部には、祭壇と考えられる四角いかたち造出がそれぞれあります。

また、古墳を取り巻くように、深さ約1m前後の周溝（空濠）がめぐっています。

この古墳は、古代の安芸の国の豪族の墓と考えられ、5世紀の前半頃に築造されたようです。

史跡 三ッ城古墳



▲整備前の空中写真（1987年）



表紙：整備前空中写真（1993年） ※空中写真は井手三千男氏の撮影による。

増刷 平成27（2015）年7月

東広島市教育委員会



▲三ッ城古墳全景（1988年）



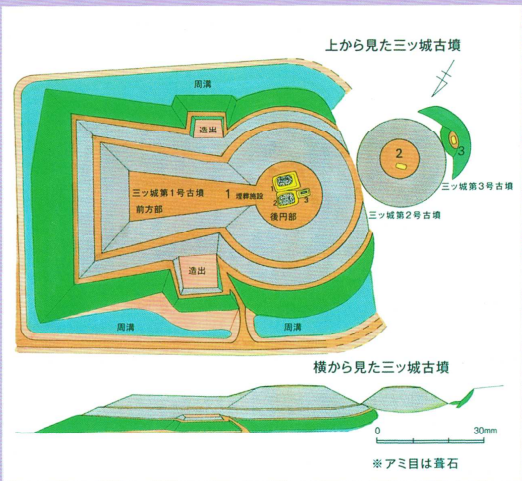
▲葺石の検出状況（1989年）

▲造出の検出状況（1988年）



▲墳丘上の埴輪の列（1989年）

▲第1号古墳と第2号古墳の間の埴輪の列（1989年）



▲三ッ城古墳全景（東から・1988年）